

ディスペンサー2基を備えた京都タクシーのオートコンポ。乗用車1台程度の小さなスペースに設置でき、乗務員がおのおの充てんできる（京都府亀岡市）



# 「オートコンポ」で災害時対応を総合的に提案

## カグラパーパテック 簡易型LPガススタンド

### 導入事業者 京都タクシー 市と防災協定 経産省が補助金



京都タクシー（亀岡市、川本恵三社長）は昨年12月、近畿圏のタクシー事業者として初めて経済産業省の補助金を得て、災害対応型LPガスバルク供給システム「オートコンポ」を導入した。補助金制度は政府が進める国土強靱化に向けた



マスコミ向け説明会、燃料の安定供給や危機管理上の利点について語る（左）川本京都タクシー社長と（右）桂川亀岡市長

マスコミ向け説明会、燃料の安定供給や危機管理上の利点について語る（左）川本京都タクシー社長と（右）桂川亀岡市長

災害時にひっ迫する燃料、電力、水などのインフラ。カグラパーパテック（兵庫県尼崎市、玉井健一社長）が、補助金を使って、管理コストが安く、身近で供給できるLPガス自家用簡易スタンド「オートコンポ」を通じて企業の事業継続（BCP）と地域防災を総合的に提案し注目されている。発電機、貯水タンクも商品に加えてタクシーの救援活動を強力に支援している。LPガスは2019年6月の国土強靱化年次計画で重要な輸送用燃料インフラと位置づけられた。

## 企業の事業継続や地域防災に一役

本社長は、充てんの際に資格が不要な自家用スタンドを導入した経緯について「これまでではタクシー車両へのガス供給は地元の空気に依存してきたが合併や閉鎖が相次ぎ、今後も安定供給を受けられるか先行き

が不透明になってきたため」と説明。災害時の炊き出しなど一時避難所の役割も期待されていることには「これを機に亀岡市と防災協定を締結した。地域社会の防災に貢献していきたい」と力を込めた。

来賓出席した桂川孝裕市長は「豪雨の災害により京都縦貫道や国道9号線、さらには各所で通行止めが発生し、亀岡が陸の孤島のような状況になった時もあった。京都タクシーが災害時のガス・電気の拠点となり得ることと危機管理の上で本当に喜ばしい」と謝意を述べた。

用機  
非常電  
非発

デンヨー「レグパワーシリーズ」  
ガス機器も同時使用可能

カグラパーパテックで発電。照明や通信機器などのほか、給湯器やカーションから選べる。一方、資源エネルギー庁は2019年度補正予算で、災害時のタクシー移動を支えるためLPガススタンドに対し自家発電電機の販売にも力を入れる。騒音も少なく、排気ガスに粒子状物質（PM）や黒鉛を含まないの近く申請を開始する。カグラは「ガス発電機はLPガス自動車の社会貢献ニーズに的確に応える製品」としている。



④ LPガスで発電すると「レグパワー」を同時に使用できる（京都タクシー）

### インフラ支える商品

#### 断水時に7日間飲料水確保

アクアリザーブ「マルチアクア」

用機  
量タンク  
大貯水

災害時の輸送力が期待されるタクシー会社にとって、従業員の飲料水と生活水の確保は欠かせない。カグラパーパテックでは企業のBCP対策用としてアクアリザーブ（東京都台東区、前島崇志社長）製の大容量貯水タンク「Multi Aqua（マルチアクア）」を販売し好評だ。マルチアクアは一本水道管の品質を保た

20リットルの貯水タンクシステムを変え、1本あたり従業員4人3日分の飲料水・生活水が確保できる。使用時は付属の高圧ポンプをマルチアクアに接続するだけ。蛇口やトイレから簡単に水を取り出せる。重い水を運ぶ必要がない。常に新鮮な水が貯水されているので7日間飲んでも不要だ。

カグラパーパテックの宮守保如営業部長は「災害時にひっ迫する水は重要。タクシー会社の事業継続を支えるだけでなく、一時避難する近隣住民への提供などにも役立つシステム。ぜひ万全の準備を整えてほしい」と話している。



常に新鮮な水が流通しながら貯水する

増設やパッケ